

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	作品研究1	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	教科書は無し。毎回講師が持参するレコード試聴と講義を基に板書を構成する。				
担当教員情報					
担当教員	天野 丘	実務経験の有無・職種	有・プロミュージシャン		
学習目的					
国内外のポピュラー音楽の現在を支える古くからの優れた音源を、現代においては殆ど使用されなくなったレコードを媒体に授業内で試聴し、デジタル・テクニック以前の制作技術、楽器の演奏テクニック、ひいてはマネージメント等に至る時代背景と、そこに生きてきたプロデューサー、ミュージシャンその他の関係者の証言などに学び、学生がこれからの音楽シーンをどう創っていくかを想像し、将来実際にどう業界に関わっていくかヴィジョンを持つ基礎となるものを持つことを目指すものである。					
到達目標					
レコード試聴(アナログ技術)により生演奏のみで録音に臨んできたポピュラー黎明期のレコーディングテクニックや演奏技術に触れ、自身がどのくらい現状到達しているかを読み解くことができる。また自己の技術革新に活かす為、レコード毎にミュージシャン、プロデューサー、レーベルの名前を覚え、歴史上の出来事を答えられるようになる。それらと同じクオリティを再現できるようになるにはどうしたら良いかを考え、自分の意見を持つことができる。					
教育方法等					
授業概要	学生個々が持つ音楽的指向や音楽経験などに留意しながら、座学形式で進行する。毎回講師の指定するアナログ・レコードを2枚程度試聴する中で、自分ならではの演奏・歌唱・作編曲するか感じ取り、楽曲の時代背景やジャンル、音楽業界の情勢や楽器知識などを通して音楽のルーツを深く理解する。さらに、得た知識をオリジナル楽曲制作に活かすにはどのような工夫をすればよいかポイントを理解する。理解度確認のため、随時小テストを実施し、各々の音楽知識のライブラリー化を目指す。				
注意点	音楽は本来嗜好品と言って良い。それぞれに好む音楽、アーティストはよく聴くがそのアーティストがどういった音楽の影響下にあるかよく知らなかったりするものである。音楽の歴史は「人の向上心の歴史」と言えるほど澆漓としたものの連続であることが分かるであろう。であるから、学生は常に「今」のみならず自分の好むものの過去や裏側に存在する様々な影響を「古い」と言われるものから汲み取るように努力すべきである。こうした態度で真摯に授業に臨んでもらいたい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	40%	期末試験を実施し、理解度を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	10%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	30%	出席は勿論、授業態度等をチェックする		
授業計画(1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	レコードで学ぶ音楽史1	ビッグバンドについて(Duke Ellington「Jazz Party」他)を理解することが出来る。			
2回	レコードで学ぶ音楽史2	ビッグバンドについて(Miles Davis「Get up with it」他)を理解することが出来る。			
3回	レコードで学ぶ音楽史3	ビッグバンドについて(Count Basie「Basie in london」他)を理解することが出来る。			
4回	レコードで学ぶ音楽史4	ビッグバンドについて(Quincy Jones「Stuff like that」他)を理解することが出来る。			
5回	レコードで学ぶ音楽史5	スウィングジャズについて(Louis armstrong「Ella & Louis」他)を理解することが出来る。			
6回	レコードで学ぶ音楽史6	ビバップについて(Charlie Parker「Now's the time」他)を理解することが出来る。			
7回	レコードで学ぶ音楽史7	ビバップについて(heronius Monk「The genius」他)を理解することが出来る。			
8回	レコードで学ぶ音楽史8	ハード・バップの幕開け(Art Blakey & J.M.「at Birdland」他)を理解することが出来る。			
9回	レコードで学ぶ音楽史9	ハード・バップの幕開け(Art Blakey & J.M.「Art Blakey & J.M.」他)を理解することが出来る。			
10回	レコードで学ぶ音楽史10	ハード・バップの幕開け(Art Blakey & J.M.「Free for all」他)を理解することが出来る。			
11回	レコードで学ぶ音楽史11	ハード・バップのその後(Art Blakey & J.M.「Child's dance」他)を理解することが出来る。			
12回	レコードで学ぶ音楽史12	ビバップのその後～モード・ジャズ、進化形ビバップ(Miles Davis「Kind of blue」John Coltrane「Giant steps」他)を理解することが出来る。			
13回	レコードで学ぶ音楽史13	ビバップのその後～モード・ジャズ、進化形ビバップ(Herbie Hancock「Man Child」他)を理解することが出来る。			
14回	レコードで学ぶ音楽史14	ビバップのその後(Milesがモード・ジャズ期以後特に大事にした「グルーブの中核としてのギタリスト」についての研究。Miles Davis「Decoy」他)を理解することが出来る。			
15回	レコードで学ぶ音楽史15	ビバップのその後(Milesが理想視していたジミ・ヘンドリックスとそう弾くように求められたギタリスト達についての研究。Miles Davis「The man with the horn」他)を理解することが出来る。			